

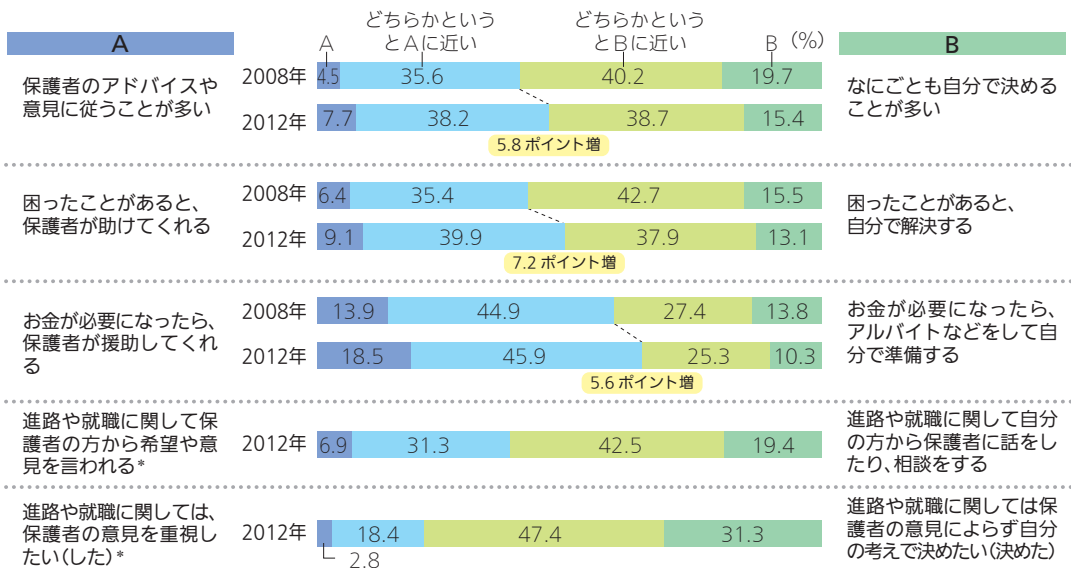
保護者への依存度が高まっている

2008年に比べて、「保護者のアドバイスや意見に従うことが多い」が5.8ポイント増で45.9%（「A」+「どちらかというAに近い」の%、以下同）、「困ったことがあると、保護者が助けてくれる」が7.2ポイント増で49.0%と約半数になった。「お金が必要になったら、保護者が援助してくれる」も5.6ポイント増で64.4%となり、全体的に保護者に頼る方向に変化している。また、学年別にみると、学年が上がるほど「なにごとでも自分で決めることが多い」や「困ったことがあると、自分で解決する」の比率が高くなる。1年生と4年生では1割前後の違いがみられ、大学生活を通して親離れをしていく学生もいるようだ。



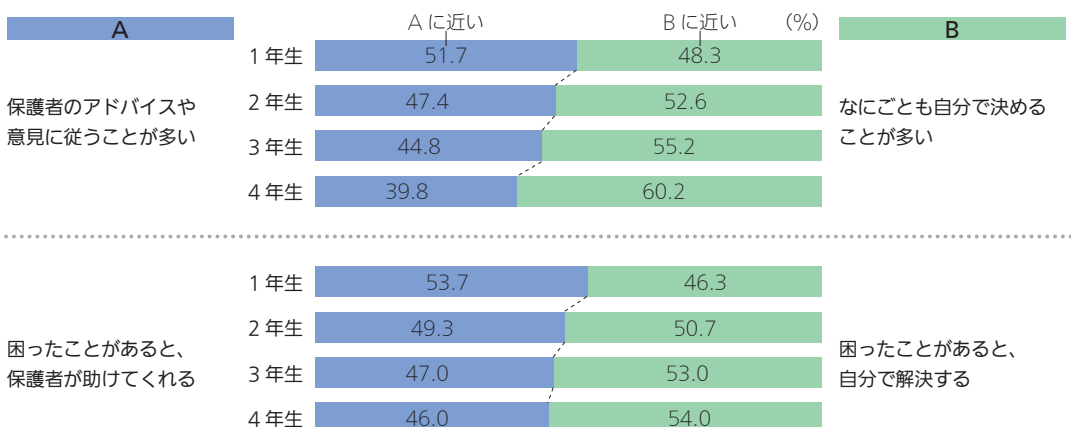
あなたと保護者との関係について、それぞれについてもっとも近いもの1つをお選びください。

図41 保護者との関係（経年比較）



注1)*の項目は2008年調査ではたずねていない。注2)サンプル数は、2008年4,070名、2012年4,911名。

図42 保護者との関係（2項目・学年別）



注1)「Aに近い」は「A」+「どちらかというAに近い」の%、「Bに近い」は「B」+「どちらかというBに近い」の%を表す。

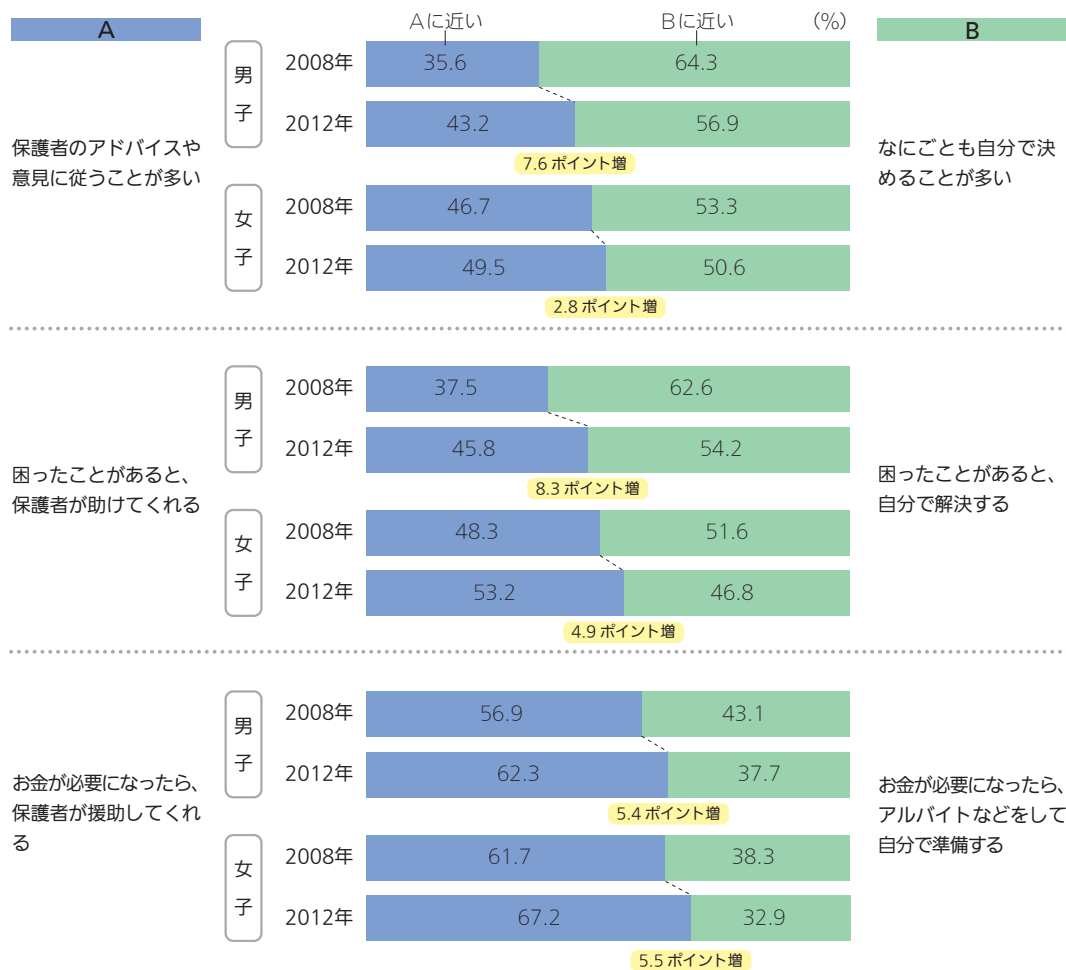
注2)学年別に違いのみられた2項目のみ示している。

注3)サンプル数は1年生1,225名、2年生1,227名、3年生1,223名、4年生1,236名。

男女の差は縮小傾向

性別で見ると、女子の方が全般に保護者への依存度が高いが、性別の経年変化をみると、「保護者のアドバイスや意見に従うことが多い」は、女子が2.8ポイント増の49.5%に対し、男子が7.6ポイント増の43.2%と、男女の差が縮まりつつある。

図43 保護者との関係（性別×経年）



注1)「Aに近い」は「A」+「どちらかというAに近い」の%、「Bに近い」は「B」+「どちらかというBに近い」の%を表す。

注2) サンプル数は2008年男子2,439名、女子1,631名、2012年男子2,791名、女子2,120名。